

令和4年度第2回「北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会」 議事録

日 時	令和4年（2022年）8月24日（水） 13：30～15：30
場 所	北見市民会館 1階 1号室
出席者	別添名簿のとおり（北海道から総合政策部交通政策局長が出席）
開会前	※北海道総合政策部交通政策局長挨拶 開会に先立ち、北海道総合政策部交通政策局長の挨拶。
議 事	1 会長挨拶 開会に当たって、会長から挨拶。
	2 冒頭説明 事務局長から冒頭説明。 ・ 定足数充足により会議が成立。 ・ 会議は原則公開とするが、資料2－1及び2については、事業者の経営に関する情報が含まれているため委員限りとし非公表とする。 (委員ら承諾。)
	3 議事（1）報告事項①「アドバイザー契約の締結について」 ・ 事務局次長から7月21日付けでNPO法人まちづくり支援センターとの間で締結したアドバイザー契約について説明。 ・ 同法人代表理事・為国氏の紹介。 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
	4 議事（1）報告事項②「第1回北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会分科会の開催結果について」 資料1に基づき、事務局次長から説明。 ・ 各分科会長が選出。 南部：北見市 北部：紋別市 ・ 骨子案（たたき台）に関し意見交換を実施。 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
	5 議事（1）報告事項③「管内路線概況及び広域での地域公共交通作成に向けた現況調査報告書について」 資料2－1及2に基づき、事務局次長から説明。 ・ 「管内路線概況」は、バス事業者から提供を受けた資料等を基に管内の広域にかかるバス路線の概況をまとめたもの。 ・ 「広域での地域公共交通作成に向けた現況調査報告書」は、令和3年度に管内市町村及びバス事業者に対して実施した調査結果をまとめたもの。 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

	<p>6 議事（1）報告事項④「高校生アンケートの分析結果について」 資料3に基づき、事務局員から説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生全体と比較して市町村域外の高校に通う学生の満足度が低い。</li> <li>・ 改善を希望する事項では、「運行本数を増やす」、「料金を安くする」、「運行ダイヤを改善する」といった項目を選択した学生が多い。</li> <li>・ 自由記載欄も含めて分析すると、「運行本数を増やす」を希望していても、「運行ダイヤを改善する」によって不満を解消可能な学生が散見。</li> </ul> <p>【質疑・意見】 <input type="checkbox"/>あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
	<p>7 議題（2）審議事項①「北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会規約（別表）の改正について」 資料4に基づき、事務局長から説明。 過半数の承認により、改正規約（別表）が成立。</p> <p>【質疑・意見】 <input type="checkbox"/>あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
	<p>8 議題（2）審議事項②「オホーツク地域等公共交通計画（骨子）案について」 資料5に基づき、事務局長から説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の構成、記載内容の提示。</li> <li>・ 基本方針、計画の目標については議論（意見交換）が必要。</li> </ul> <p>【質疑・意見】 <input checked="" type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし</p> <p>■JR 北海道</p> <p>当社は平成28年11月に、石北線と釧網線を含めて当社単独では維持困難な線区を示しているほか、国の監督命令においても、石北線と釧網線は「利用が少なく鉄道を持続的に維持するための仕組みが必要な線区」と位置付けられたところ。このような状況を受け、現在、関係団体と、利用拡大や経費削減、維持する仕組みを検討している。骨子案中、5「オホーツク管内の公共交通課題」の鉄道に関する部分については、単に「利用拡大に向けた取組を推進」という表現のみでは不十分。</p> <p>■事務局長</p> <p>骨子にどの程度盛り込めるか会長と相談した上で、ご指摘の内容を検討したい。</p>
	<p>9 議事（3）意見交換 別紙「計画策定にあたって」及び論点メモに基づき、事務局長から説明。 以下、特徴的な課題、現在の取組等について意見交換。</p> <p>【質疑・意見】 <input checked="" type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし</p> <p>■北見市</p> <p>事業者から利用状況などの情報提供を受け、共有できる機会は貴重であ</p>

り、本音ベースで議論したい。計画期間の5年間はあっという間であり、次期計画へむけた見直しもすぐだと思うので、問題意識を持ち続けたい。

■網走市

通勤や通学による需要は一定程度あるが、コロナ禍で減収が著しい。予約制デマンドなど持続可能な手段を検討することが必要。

■北海道高等学校 PTA 連合会北見支部

学校のカリキュラムが膨大であるため、中高生は大きな荷物を持って通学している。重い荷物を持った中高生に対するアプローチも検討できないか。

■オホーツク観光連盟

高校生アンケートの回答では、改善点として「路線図や時刻表をわかりやすくする」と回答した学生が多いようだが、観光客も同様に考えるはず。こういった観点から新しい取組みができないか。

■私鉄総連北海道地方労働組合北見バス支部

運転手不足に関して、乗車人数の減少により収益が落ち、人件費に経費を割くことができない事業実態がある。運転手不足には高額な免許取得費用なども原因。労使で話し合い、人材確保の取組を進めてきたが、ここ数年は難しい状況。抜本的な改善策は労働条件の改善と考える。若い運転手が会社に勤めてよかったと思えるよう前向きに取り組んでいきたい。

■紋別市

地域特有の課題として、免許を返納する高齢者の増加があり、公共交通を利用するようシフトさせていく必要がある。当市では、免許の返納者が北紋バスかイオンの窓口で警察署発行の証明書を提出するとバス券が付与されるが、バス券の費用は当市が負担することとしている。年間では5~10人程度返納者がいる。また、イオン等と協力し、G.G.WAON キャンペーンも行っている。

■北海道北見バス

新型コロナウイルス感染症の流行により、借入れが増加し、経営が悪化しており、お金をかけても運転手も集まらない状況である。自治体から支援を受けて公共交通を守っているが、運転手不足が原因で路線が守れない状況が見えてきた。今後は、利用促進だけではなく、運転手不足に対応しなければバスが走れないことも考えていく必要がある。

■網走バス

当社も運転手は不足しているが、法改正で19歳から大型二種免許を取得できるようになったことから、自治体と一緒に高卒者を採用するための手立てを考えていきたい。定時定路線が適切かという議論も必要。必要な方に必要な分だけ供給するシステムを考えたい。また、計画が策定された際には、

住民にも厳しい状況を共有し一緒に取り組んでいきたい。

■訓子府町

骨子案の構成について確認したい。6「基本的な方針」は課題解決に向けた目標ということだと思うが、この2つを設定した考え方をお聞かせ願う。

■事務局長

本来は課題を洗い出してから目指す姿を設定しなければならないが、今回は短い期間で計画を策定する必要がある。当然、議論を深めていく中で基本方針も変わっていくが、ゼロベースでご意見を伺うのは難しいと考え、事務局で2つに絞って提示させていただいた。

■会長

今後、課題の洗い出しを行っていきたい。肉付けを行ってから、最終的な成案となる。

■名寄市

今の若い人はインターネットに載っていなければ存在しないと考える。バスロケーションシステムの導入なども考えていきたい。

■枝幸町

当町では、令和元年度に策定した計画に基づき、令和2年度からバスを減便、高校の休校日は運休するといった取組を行っている。また、昨年度からはデマンドバスの導入や、一部路線のコミュニティバス化を行った。いかに実効性のある計画にするかが大切であることから、中間の見直しに向けて内部で検討しているところ。

■美幌町

当町は本年策定した計画に基づき公共交通の全面的な見直しを図った。予想と異なる結果となった部分については、見直しに向けて検討しているところ。また、当町の課題としては、高校生のアクセス向上もある。当協議会で広域交通の見直しを行うに当たっては、生活圏交通との連動を考えていく必要がある。広域の移動手段の確保についても議論したい。

■津別町

令和3年度に策定した計画に基づき取組を進めているが、この間に時代が変わっていると実感しており、その都度、計画策定に当たって大事な観点を考えなければならない。商業圏、医療圏、高校の通学といった視点も必要となってくる。商業圏では公共交通を利用する以外にも移動販売車などのサービスがあり、通学でいえば、高校の統廃合という問題がある。様々な事情を視野に入れて一緒に考えていきたい。

■斜里町

当町は、計画策定から5年目の見直しの年であるが、広域計画の策定等を

	<p>見据えて見直しを1年延期した。コミュニティバスなどは利用者の満足度が高い一方で、空気を運んでいるという批判もある。網走市への通院など広域な移動も考えなければならない。スクールバス等を事業者に委託するにしても、時間的・人的な制約があり、利用者のニーズに合わないこともある。広域計画でも同じような視点を大事にしてほしい。</p>
	<p>10 その他</p> <p>参考1及び2に基づき、事務局長から情報提供。</p> <p>① 鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会について</p> <p>② アフターコロナに向けた地域交通の「リ・デザイン」有識者検討会について</p>
	<p>11 まとめ</p> <p>■北見工業大学・高橋教授</p> <p>① 幹線交通については、路線を残す理由を住民も含めて共有し、サービス形態など残すための方策についても話し合っていくことが必要。</p> <p>② 地域の連携や活性化のための手段は多様化している。新たな技術や概念を拒絶感なく活用していくことが必要。</p> <p>③ 計画の策定、施策の実施に当たっては、データに基づいて住民に説明することにより、公共交通の現状を認識してもらうことで、住民も巻き込んで計画を作っていくことが必要。</p> <p>■会長</p> <p>初顔合わせで議論が出来たことに感謝。年度内での策定に向けスピード感を持って取り組むとともに、様々な社会情勢を捉えた計画としたい。今後も計画策定に向けて、協議会全体で検討を進めて参るので、ご協力願う。</p>
<p>その他</p>	

以 上